

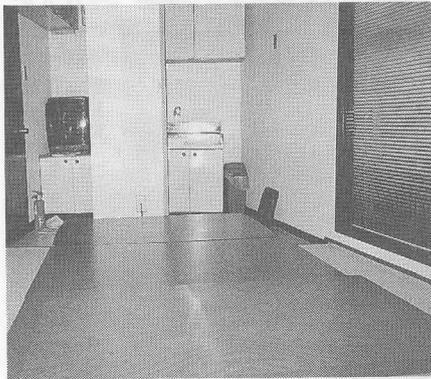
いずみ会/旧都立大泉中学校・都立大泉高等学校同窓会

# 会報いずみ 第47号

発行/いずみ会 編集/いずみ会広報部  
〒178-0063 東京都練馬区東大泉 5-3-1 都立大泉高等学校内  
ホームページ <http://www.izumikai.net>

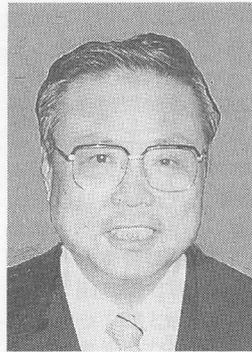
## 主な記事

- 2~4 執行部関係
- 5 母校関係
- 6 恩師近況
- 7 会員インタビュー
- 8 同期会会報
- 9~11 同期会・OBOG会関係
- 12 総会ご案内、その他



昨年6月より「いずみ会」の会長に就任して一カ年の月日が経過しました。本年5月31日の幹事総会にて事業と会計の評価をいただきました。結果は散々なものでありませんでした。救いは会計面の係数は正確であったことです。当然といえば当然でありませんが、現在のいずみ会員数は二万人を越えている大集団になってきているので、会の運営や組織面において改善すべき点が多々あると感じます。

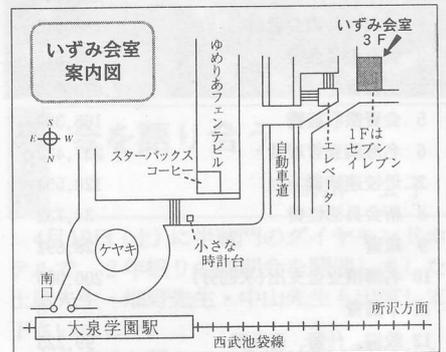
ボランティアでの業務実施には会員数が多く皆さんのニーズに応えることが少々無理な状況があると実感しました。その対応策として「いずみ会室」を大泉学園駅前新設して



## 新設「いずみ会室」 新たな活動の拠点として

会長 石井代三 (高6期)

ゆくゆくは業務の効率化を図ることがベストであること、またいずみ理事会を開くにも会場をさがすのに苦労をしている現状も含めて、この際いずみ会の新しい拠点を設置すべきであると考えたのです。この「いずみ会室設置案」には幹事総会の出席者の70%以上の賛同をいただきました。その結果「いずみ会室」は開設され、現在理事会・部会・総会の準備会等に使用されつつあります。この部屋の管理については地元の村井理事(高6期)に依頼し同窓会員には開放する仕組み(下記参照)にしております。また留守役にはボランティアで大泉に住んでいる同窓生にお願いをして、日中の少々の時間ですが来てもらうこととしてあります。是非とも大泉在住の人で時間に余裕のある人にはご協力をお願いしたいと思っています。維持管理費として、年間百万円くらいの出費と推定しています。多数の会員の中で約



五千人くらいの人の住所氏名や生存等の確認ができておりません。この人たちの掘り起こしに力点を置いて会費納入の促進を図ることによって維持管理は可能となると考えています。会員の皆さんには拠点であるいずみ会室を有効に利用されて、楽しくて思い出のあるクラス会や同期会の企画に役立ててください。

大泉高校も「中高一貫校」の指定を受けてその準備に入っています。作業が具体的にになると母校との緊密な連携をとることになるでしょう。このような状況には拠点となるいずみ会室が有効となり母校にも貢献することができそうです。今後のいずみ会の進め方は、会員の皆さんと苦楽を共にして発展をする必要があると考えています。そのためには会の組織を強化して会員の皆さんの要求に応えられるいずみ会にしていかなければなりません。会員の皆さんにも母

## 「いずみ会室」開設 —その概要と使用方法—

名称「いずみ会室」とする。  
目的「いずみ会会員の集う場所とする。また、理事会・部会等、会の事業に必要な会合の場所とする。  
所在地  
〒178-0063 練馬区東大泉 6-34-30  
SKビル305号

大泉学園駅南口より徒歩約2分  
仕様 約20㎡(カーペット敷き)  
水道・トイレ・エアコン敷設、座卓(電話は検討中)

利用方法 以下の手順を経る。

- ①いずみ会HPの「いずみ会室」に掲載されている「使用申込書」を印字して必要事項を記入し、村井和郎理事宛にFaxで送る。  
(Fax 03339228888)
- ②使用が認可されれば「許可書」がFax等で返送されてくる。
- ③室の鍵の受け渡しは、担当理事の指示による。
- ④室内は禁煙。使用後は清掃して、ゴミは持ち帰ること。

校を愛する心と同様にいずみ会を愛する心を持ってご協力いただければ幸いです。以上  
よろしくお願いたします。

## 本年度 いずみ会総会・懇親会

10月26日(日)午後一時より 母校にて開催(詳細は12面に)

# 幹事総会報告

平成15年5月31日(土)午後1時より、母校会議室において定時幹事総会が開催されました。司会の大久保氏(高29期)の進行により、会長挨拶、議事録署名人(神田氏・高6期、植村氏・高50期)の選任のあと、議長に桜井氏(高2期)が選出され、議事に入りました。

まず、「平成14年度事業報告および決算報告」について、土肥理事および今村理事より報告があり、引き続き鈴木、廣川両監査役から監査報告

がありました。三名の監査役からは、二通の監査報告書が提出されたほか、執行部の業務運営並びに会計処理方法に関する問題点を詳細にまとめられたレポートが提出されました。

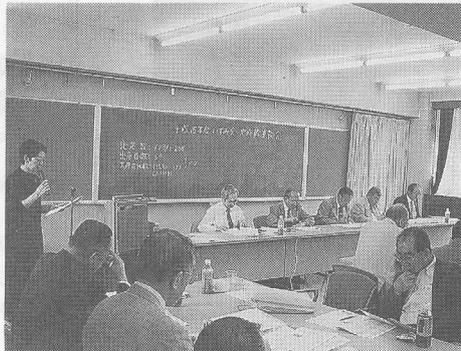
今回の監査では、決算内容について不正な公金使用はないものの、いずみ会名義となつている預貯金等の財産管理のあり方、前受会費の取り扱い方法など、おもに従前から慣例となつている会の会計処理方法に問題があると指摘を受けました。これに対して出席幹事からも様々な意見が出されましたが、会長から会計処理方法の見直しと、会則の変更を検討する委員会を早急に設置して来年度幹事総会に提案する旨の意向が示され、これを条件に事業報告並びに決算報告は拍手を以て承認されました。

## 定時幹事総会 出席者一覧(敬称略)

登録幹事総数: 623名	出席幹事数: 78名	委任状提出幹事数: 236名
(幹事) 中学1期: 猪俣麟一郎、大和田啓三朗、春日孟、永川俊彦、高校2期: 櫻井宏、武見健三、高校3期: 長谷川浩吉、熊谷光恭、仙田暁一、高校5期: 青山喜彦、嶋正彦、高校6期: 有田二郎、石井倍三、今村邦夫、工藤一星、杉山肇、高橋保孝、西田英治、村井和郎、神田計子、舛田淳子、高校7期: 板倉克明、山田清子、高校8期: 新井正晴、堤美穂子、茂木光男、小坂坂満邦、藤井元孝、岡崎美代子、高校9期: 須藤一彦、清水信、高木博明、武市則昭、高校10期: 井上康子、保延義夫、野口悦子、田島寛、藤田肇、小川皓司、関口昌子、廣川和男、鈴木京子、高校11期: 加藤勇、北上俊人、椎葉亮一、富田順子、高校12期: 板橋昭寿、高校13期: 丸山和郎、山本章義、大高光蔵、高津幸一、佐藤克子、高校14期: 布施百合子、浦田佐恵子、高校16期: 鈴木哲、大場修一、高校18期: 杉山明美、安齊秀行、高校20期: 土肥暁美、金子研一、宮本正信、高校21期: 吉田佐由美、高校22期: 花澤亮司、高校24期: 真柳仁、高校27期: 宇野伸一、高校28期: 野島陽子、西澤正博、高校29期: 齋藤俊夫、大久保靖、高校30期: 篠原裕、高校31期: 原秀年、高瀬浩和、和藤真由子、高校32期: 仲澤浩一、高校47期: 戸田寛子、高校48期: 門脇卓也、高校50期: 植村直人、高校53期: 山元早苗 合計78名		

これに対して、幹事からは年間百万円超の維持費が会の財政に与える影響や部屋の使用目的や管理方法が不明確である点などに質問が集中しましたが、会計部からは予算上大きな問題にはならない見通しが示され、また会長からは、部屋の管理運営方法について、広く会員全体にとって有益となるよう早急に検討したいと

の回答があり、採決の結果、賛成多数で承認を得ました。



3番目に、「平成15年度事業計画案、予算案」について説明があり、質疑応答のあと、事業計画案に前記の会計処理方法の再検討と、いずみ会室開設に伴う事務局体制の拡充に関する文言の追加提案を入れて、承認されました。

4番目に「いずみ会規則の一部改正案」について、田島理事より「名簿部」の名称を「会員情報部」に変更するとの説明があり、採決の結果、拍手を以て承認されました。

最後に、役員人事の変更、各期幹事の登録更新の実施、最近の母校の様子等について報告があり、加藤副会長の閉会の辞を以て総会は閉会となりました。

## いずみ会財産目録

(2003.3.31現在 単位:円)	
一般会計次期繰越金	10,080,350
前受会費等及び利息	18,564,456
名簿発行引当金	3,143,232
合計	31,788,038
同窓会名簿(2000年発行)	657冊
パソコン(購入分)	3台
プリンター	1台
パソコン(リース分)	2台

引き続き短時間ではありましたが懇親会が開催され、出席幹事が和やかに懇談しました。

## 平成15年度 収支予算

収入の部 (単位:円)	
1 新入会員入会金 (280人)	1,395,000
2 本年度分会費	3,044,000
3 本年度分寄付	1,221,500
4 雑収入	50,000
5 2000年名簿等売上	90,000
6 総会参加費	375,000
7 前期繰越金から(※2)	398,860
当期収入合計	6,574,360
支出の部	
1 総会費	505,000
2 役員、幹事会合費	340,000
3 監査役会費	10,000
4 広報費	2,570,000
5 会費関連経費	131,160
口座振替手数料・会計部活動費	
6 名簿関連経費	490,000
名簿積立金・新入会員名簿作成費・名簿部活動費	
7 母校連絡費	150,000
8 会員活性化費	70,000
9 消耗品作成費	270,000
封筒作成費・振込用紙作成費	
10 什器・備品・設備費	238,200
20 雑費	50,000
30 予備費	50,000
40 事務局関連経費	1,200,000
年間維持費・開設準備費	
50 業務委託費	500,000
当期支出合計	6,574,360

当期収支の部	
1 当期収入合計	6,574,360
2 当期支出合計	6,574,360
当期収支差額	0
前期繰越金(※3)	9,681,490
次期繰越金	9,681,490

## 平成14年度 収支決算

収入の部 (単位:円)	
1 新入会員入会金 (280人)	1,400,000
2 本年度分会費 (2327人)	2,327,000
3 本年度分寄付	685,500
4 雑収入	175,258
5 2000年名簿等売上	171,000
6 総会参加費	344,000
当期収入合計	5,102,758
支出の部	
1 総会費	487,257
2 役員、幹事会合費	258,646
3 監査役員会費	3,515
4 広報費	2,670,505
5 会費徴収経費	168,300
6 名簿調査管理費	237,422
7 母校連絡費	120,554
8 新会員活性化費	34,732
9 雑費	28,692
10 名簿積立金支出(次回分)	200,000
11 予備費	0
12 設備、什器、備品費	99,225
13 総務部業務委託費	462,261
当期支出合計	4,771,109
当期収支の部	
1 当期収入合計	5,102,758
2 当期支出合計	4,771,109
当期収支差額	331,649
前期繰越金	9,748,701
次期繰越金(※1)	10,080,350

注: 前年度次期繰越金(※1)と今年度前期繰越金(※3)の差額は、今年度収入の部に前期繰越金の一部(※2)を計上した会計処理により減額したものである。

# 「中高一貫校」その後

前号の編集時から1年が経過しましたが、未だにその具体的なイメージが描けないままの状態が続いています。今年の6月に母校の奈良教頭先生に以下のようなことを伺いました。

『都は、都立高校の大学進学効率を高めよという都民のニーズに応えるために、各学区の上位校を一貫校に指定し、生徒にゆとりを持って勉強させて大学受験に備えさせようとしている。』

中学・高校が純粹に一貫している学校とするのか、高校入試も行う中高併設校とするのか、また規模はどの程度のものになるのか等は今のところ未定である。

大泉高校については、平成22年度からの実施の予定だが、白鷺高校等の学校では17年度以降順次実施されてゆくの、これらの先行校の実例を勘案しつつ準備を進めたい。現時点では、この件について大泉高校としての態勢作りはしていない。』

ところで、意外にも現役の大泉高校生たちが、この問題に広く深く取り組んでいました。生徒会の一組織である新聞小委員会が、昨年12月に発行した『大泉高校新聞』第184号は、全2ページをこれに関する特集にあて、教育庁・他県の既実施校・私立高校等への取材、本校生徒たちの意識調査、編集委員の論説、最後に「特集を考える」という総括のコラムで見事に締めくくられています。その論説に曰く、「生徒である私た

ちができることは、今の大泉高校生として、後輩たちに何を伝え何を残していきたいかを今考えることではないか。大泉高校は変わってゆくかも知れないが、変えてはいけないものがある。それは自主自律の精神、大泉高校生としての誇り、またここにある笑顔、つまりは大泉高校生の「心意気」だ。制度は変わるが、それによって後退するのではなく、生徒の発展の場としての母校であり続けてほしい。」と。

この論説の趣旨は、われわれいずみ会員の母校に対する基本的な心情と一致していますね。さて、会としてこの問題にどんな寄与が出来るでしょうか。(こう書いた生徒も、来年はいずみ会の会員となります。)

## 来年はいずみ会役員改選です

現在の役員は、平成15年度末をもって任期満了となります。

役員はいずみ会の発展のため、理事会等の会合に出席し、事業を検討し、また会員とのパイプ役をします。現在、期の幹事をされている方、また同期からの推薦を受けている方が望ましいです。選挙要項は次のとおりです。

1. 次期いずみ会役員への選任は来年度定時幹事総会(日時未定)において行います。
2. 各役員選挙に対する立候補並びに推薦届の受付期間は、平成15年10月1日から平成16年1月31日迄です。
3. 立候補届・推薦届は、下記の事項を明記し、いずみ会選挙管理事務局に郵送下さい。(記載漏れ

## 役員異動

副会長の角原佑一氏(高10期)は、一身上の都合により平成15年1月をもって役員を退任しました。これに伴い、残任期間中、田島寛氏(高10期)が副会長代行となります。また、会員情報部長は大軒史子氏(高9期)から桜井宏氏(高2期)に交代しました。

## 名簿部から会員情報部へ

幹事総会報告にもあるとおり、事務局内の「名簿部」は、より活動内容にふさわしい名称として「会員情報部」と改称することになりました。引き続き、会員情報の充実に努めますので、会員各位のご協力をお願いいたします。

があると、無効となることがあります。(ります。)

4. 届けの受理確認は、平成16年2月中旬にご連絡します。
5. 郵送先  
〒178-0063 練馬区東大泉6-34-30  
SKビル305号 いずみ会室内  
いずみ会選挙管理事務局

### 記

- ①立候補または推薦する役職名(会長・副会長・理事・監査役)
- ②立候補者または被推薦者(ご本人の氏名・期・住所・電話番号(あればメールアドレス))
- ③推薦届の場合は推薦人の氏名・期・住所・電話番号(あればメールアドレス)
- ④立候補または推薦の理由(200字以内)

## 平成15年度 事業計画

1. 総会の開催  
平成15年10月26日(日)母校にて開催予定。前半は、理事会の進行でいずみ会の活動や母校関連事項の報告、後半の懇親会は、高校卒業期の下一桁が3の期による「3の会」を結成し、企画・運営にあたる。
2. 会報の発行  
広報部として次の事業を行う。  
①会報いずみ第47号を平成15年10月1日に発行予定。  
②ホームページの充実。
3. 会員情報の整理  
会員情報部として次の事業を行う。  
①住所不明者の判明率の向上をはかるため、名簿幹事の集いを年2回開催する。  
②インターネットを通じての情報提供にも積極的に対応し、ホームページの住所情報サイトに反映する。  
③「高校54・55・56期名簿」を作成し、「2000年名簿」と共に新入会員に配布する。  
④同期会支援のために、案内発送用のラベルを作成・送付する。  
⑤名称の改称。(平成15年5月31日)
4. 母校との連絡  
①平成16年3月15日に、いずみ会入会式を開催する。  
②平成15年9月20・21日予定の母校文化祭に参加する。  
③母校関係者と交流会を開催し、母校との緊密化をはかる。
5. 会財政管理  
会計部として次の事業を行う。  
①会費・寄付金・入金金等の管理および適切な執行。  
②会費納入率の向上推進。  
③前年度監査報告に基づく会計処理方法の抜本的な見直し。
6. その他の事業  
いずみ会の活動を推進するため次の事業を行う。  
①幹事総会の開催。(平成15年5月31日)  
②理事会・監査会の開催。  
③各期幹事の登録更新。  
④若手幹事の積極的参加を呼びかける。  
⑤いずみ会室開設に伴い事務局の常設化を目標に体制の拡充に努める。  
⑥その他。

## 平成14年度 事業報告

1. 6月16日(日)定時幹事総会が母校会議室にて開催され、平成13年度事業報告・決算、平成14年度事業計画・予算案が承認され、「会報部」を「広報部」に改称する件、役員改選事項、母校の支援策などについて、活発な意見が交わられました。
2. 会報いずみ第46号を10月1日に発行し、いずみ会活動状況、母校60周年記念協賛事業、会員・OB・OG会情報、新役員紹介等の記事を掲載し、全会員及び教職員に送付しました。
3. 10月27日(日)、いずみ会の総会、懇親会を母校にて開催しました。懇親会は高校卒業期の下一桁が2の期が「2の会」を結成して企画立案・運営にあたり、会員・恩師合わせて140名余が出席しました。
4. 名簿幹事の集いを年3回開催し、住所不明者の判明率の向上をはかりました。またインターネットを通じての情報にも積極的に対応し、ホームページ住所情報サイトに反映させました。
5. いずみ会ホームページに、幹事総会議事録やいずみの広場の記事等を掲載し、同期会、クラブ・OB・OG会等関連には、独自のサイトをもつ期にリンクができるように設定し、会員相互の交流を支援しました。
6. 9月21・22日に開催された母校文化祭へ参加し、「いずみの広場」において「いずみ会文庫」一覧を配布すると共に、展示された蔵書を通して母校の後輩や来場者との交流をはかりました。
7. 総会・懇親会において、若手幹事に積極的な参加を呼びかけ、会場においての交流をはかりました。
8. 平成15年3月13日(木)、新卒業生(高55期)のいずみ会入会式を開催し、活動への参加を呼びかけました。
9. おもに会費未納者の会費納入促進をはかるため、会報発送時に同封する会費振込用紙に住所や納入状況等の個人データを印字したものを発送して、大幅な納入件数の増加を得ることができました。
10. 事務局業務の軽減を図るため、事務作業の外注化を進めました。
11. かねてから懸案であった、各期幹事の登録見直し作業を、各期の代表の幹事に依頼し、直接いずみ会活動に携わる幹事の登録を依頼しました。

# 平成14年度 いずみ会総会報告

昨年度のいずみ会の総会は、平成14年10月27日(日)に母校で開催され、一四三名の会員と学校側校長先生ほか三名、恩師三名の一四九名が出席しました。

12時過ぎから、1号棟玄関ロビーで出席者の受付が開始され、例年より出足が良く、開会を待つ会場の視聴覚教室(2号棟3階)は、ほぼ満席の盛況となりました。

定刻1時に大久保理事(高29期)の司会進行で総会は開会され、まず、同年6月に田中前会長(現顧問)からバトンタッチした石井新会長から挨拶があり、就任後の同窓会の活動や事業の状況への印象や今後の運営の拡充策等について、所信表明があ

りました。

続いて、母校の高橋公治校長先生からご挨拶があり、母校を巡る状況について、特に母校が平成22年から中高教育一貫校の指定を受け、今後そのあり方等について具体的な検討が必要となる旨のご報告があり、今後の同窓会の支援、協力が期待されることのお話がありました。

次いで、大場副会長から、平成14年度の事業の進捗状況や、文化祭において「いずみの広場」を活用して「いずみ会文庫」を紹介し、好評であったなどの報告がありました。ほぼ定刻の午後1時20分過ぎに総会は終了し、「2の会」が企画・運営する懇親会に引き継がれました。

## 「輪」と集まって」懇親会報告

「2の会」会長 小野田敦子(高12期)

「輪」と集まって」「さ」と散りそんな懇親会でした。

遅ればせの「2の会」の発進でした。年齢差の大きな集まりですが、いとも簡単に、お互いにすこしずつの遠慮をもちながら、あつという間にテーマが決められ、これは我々がこれはわたし達だと役割分担もスムーズにいきました。

さて、当日は受付を済ますとすぐに、福引の箱みたいなもの。手を入れ、でてくるのは「花札」「これはなに?」の言葉から始まって、ここから賑々しく会場へ。昨年に引きつづき、一番若い「2の会会員」による「司会」、初々しく一生懸命しきつ



## いずみ会文庫の展示が盛況でした 文化祭参加報告

平成14年9月21日(土)・22日(日)の両日、大泉高校の文化祭が開催されました。

いずみ会も、在校生や保護者の方々と交流の一環として、平成11年より文化祭に参加して来ましたが、今回は前年までの講演会を中心にしたものから一変し、「いずみ会文庫」に所蔵されている元教職員や卒業生の方達の著書、約一四〇冊を「いずみの広場」(4号棟3階 図書室前)に展示しました。

初めての試みと云うことで、来場者が何人位あるのか、役員一同心配しておりましたが、2日間で二三八名もの来場者があり、担当者は大忙しで嬉しい悲鳴をあげました。

てくれました。

メインイベント「輪なげ」がはじまります。受付で手にした花札はこのゲームのためのチームづくりのものです。「松」「梅」「桜」・・・「わなげ?」などとみくびつていた「御仁」たちもやってみればこれが以外に難しく、あれ?アレ?あれ?歓声とため息、老いも若きも盛り上がりました。そして「輪」に因んだ「賞品」がたくさん。その間に胸の名札をたよりに、片手に箸、片手に皿、そして飲み放題の花がさきました。短時間で結成された「2の会」でしたが、目立たないところでみなさんが黙々と働いてくださって、本当によい「懇親会」ができたと思自賛して、次回にバトンを渡します。

## 広場に設置してある創立時の教員 用机や木製丸テーブル、昔の校舎等を 写したパネルが好評でした。「いずみ 会文庫」の目録も掲示しました。

来場された方達は、展示物を興味深げに見る一方で、入試制度改革により来年から希望の都立高校を受験できるようになったことや、大泉高校が中高一貫教育高に選ばれた話などを、応接する理事の面々と熱心に話し込まれておりました。

一方、窓の外からは3年6組による「ソーラン節と餅つき大会」の元気な声、会場入口前の和室からは箏曲部による琴の優雅な音色が響き、足を運んでくださった皆さんは本当に満足しておられる様子でした。

「ソールン節と餅つき大会」の元

## 新会員入会式報告

平成15年3月14日(金)の卒業式に先立つ3月13日(木)の卒業式予行の機会を利用して、例年のとおり同窓会入会式が、体育館アリーナで行われました。

石井会長の代理で、加藤副会長が同窓会のあらましと意義とを全卒業生に話したあと、大場副会長が新幹事一人一人の名前を呼び登壇しても

校門から校舎へと続く名物の桜並木も立派に成長し、また大泉の駅前も再開発で見違えるように変貌しています。文化祭は毎年9月に開催されています。会員の皆さまも、現役生徒が元気に活躍している姿をいっど見にいらいっやいませんか?



らい、委嘱状を手渡した後、新会員全員に会への協力を依頼しました。その後、各教室でいずみ会作成の

「高校54・55期名簿」と「二〇〇〇年名簿」および「会報いずみ第46号」が二七九名の新入会員に配られました。左に掲げた幹事リストは、高校55期の幹事の方々です。若さという武器のパワーと智恵を新幹事の皆様に発揮してもらえらるものと期待しています。

## 高校55期 幹事一覧

- 1組 小林 洋平
- 2組 柳沢 猛
- 3組 伊藤 和樹
- 4組 二瓶 萌
- 5組 下田 紗代
- 6組 直井 麻子
- 7組 坂田 惟之
- 8組 山田 巧美
- 9組 三谷 卓
- 10組 吉井 理香
- 11組 二宮 恭介
- 12組 崎口 愛美
- 13組 伊藤 啓悟
- 14組 三尾 涼子

# 大泉高校のさらなる発展のために

第十七代校長  
藤井文雄



大泉高校に今年度校長として着任しました藤井文雄です。日頃より、本校の教育に対して同窓会からのご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。大泉高校は、私にとつては都立の中でもあこがれていた高校でしたので、嬉しさと共に責務の重大さを感じています。都立高校も大きな改革の波が押し寄せ、本校は平成22年度には、中高一貫校として、新たなスタートを切るようになってい

## 活躍しています

### ▽陸上部

3年生の水野智深(さとみ)さんは6月に前橋市で行われた南関東大会の400メートルハードル種目に都代表(6人)の一人として出場しました。緊張してしまつて実力を出しきれず、上位進出は果たせませんでした。自己ベストを更新することが出来ましたが、「語つた彼女は、昨年秋季にも関東高校新人大会の都代表(3人)にも選ばれました。これは大泉高校では10何年ぶりの快挙であつたこととです。今後とも部活の合宿に参加するなどして技を磨き、秋の国体予選東京大会にも出場する予定で、「体育科のある大学に進んで陸上を続けます」との明快な言葉が爽やかでした。頑張れ!

ます。大泉の良き伝統と校風を継承しつつ、都立の星としての大泉高校の創造に尽力する覚悟です。

「自己に厳しく、他者に温かく」をモットーとして、生徒や教職員と積極的に接して、大泉高校のさらなる発展を目指したいと思っています。

今年度から都立高校では、学校経営計画を作成、公表し年度末に学校評価をするシステムとなりました。本校の紹介と同時にホームページ(URLは12面)に掲載されています。母校の様子を是非ご覧下さい。

最後に、本校の現役の生徒のために、同窓会の方々のお力を借りたい場面があるかと思いますが、ご支援とご協力をお願いいたします。

### ▽新聞小委員会

昨春秋、第18回東京都高等学校新聞コンクールにおいて、「佳作賞」を受賞しました。これは昨年中に発行された「大泉高校新聞」の2つの号がその対象となつたものです。その1つは、学校に「機械警備」が導入されることについて、その経緯と内容と実際例とを広く取材しつつ、学校という場にそぐわないその制度の実態を浮き彫りにしています。

次の号は「大泉高校の自由とは何か」という、古くて新しいテーマについて、「自堕落に流れずに自主自律を」と訴える論陣を張っています。ちょうど完全な「学校週5日制」が始まつた時で、タイミングのよい問題提起でした。ともに、生徒自身の学校生活に直接関わってくる問題で、

## 平成15年度年間行事

- 4月8日 入学式
- 5月7日 体育祭
- 9月20/21日 文化祭
- 10月14日 開校記念日
- 平成16年
- 1月21/24日 2年生H R 合宿
- 3月15日 はずみ会入会式(高56期)
- 3月16日 卒業式

## 体育祭

今年の体育祭はまあ穏やかな天候に恵まれたと言えます。生徒諸君が、組によって色分けされたカラーTシャツの「ユニフォーム」を着て、走り、ぶつかり、踊りまわるさまはまさに百花繚乱。特に、20人で作る百足競争の「百足」たちが競り合う場面は、まるでブルー、オレンジ、グリーンなどの「人間列車」の競走です。途中停車と再発車の繰り返し、その懸命さがユーモラスでした。



「記者」たちは一生懸命にそれらの難問と取り組んでいます。そういう姿勢と、引き締まつた読みやすい文章とが受賞のポイントになつたのでしよう。

## 教職員人事異動(敬称略)

【転出・退職】( )内は転出先等		【転入】( )内は前任校等	
校長	高橋公治(退職)	校長	藤井文雄(東村山西)
生物	稲垣 希(広尾)	国語・司書	荒木敦史(両国)
化学	長島宏希(光丘)	社会	飯田一史(新規採用)
物理	橋本道雄(練馬)	生物	田中良和(青井)
家庭	斉藤弘子(退職)	化学	高橋洋一(王子工)
英語	諫山和可(小山台)	物理	原田光男(武蔵村山東)
英語	佐藤克子(退職)	家庭	立川仁美(牛込商)
英語	瀬谷三郎(富士)	英語	大川真理子(大森東)
英語	菊池保夫(練馬)	英語	吉澤博志(杉並)
司書	清水英雄(多摩工)	英語	小島直子(新規採用)
事務	窪谷有理子(大崎)	英語	鈴木公春(向丘)
事務	岩城和夫(退職)	英語	神成恵美(健康局)
事務		事務	辰巳 謙(北豊島工)

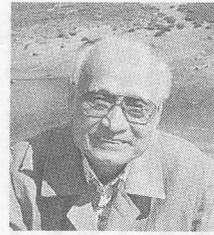
## 進路状況 (内は1浪、内数) 2003年度版「進路の手引き」母校進路部による

- 【国公立大学】 宇都宮1、筑波1、埼玉9(5)、千葉1、東京学芸5(2)、東京工業1、東京農工3(1)、電気通信1、一橋1(1)、横浜国立1、新潟1(1)、大分医科1(1)、琉球1、都立7(2)埼玉県立1、防衛2 計37名(内 既卒者13名)
- 【私立大学】 青山学院21(4)、亜細亜4(2)、大妻女子2(2)、学習院15(5)、北里3(2)、杏林1(1)、慶應義塾7(4)、工学院3(2)、國學院5(1)、国際基督教1、国士館3、駒沢17(5)、芝浦工業8(1)、上智14(5)、昭和女子1、昭和薬科3、成蹊23(7)、成城4(2)、専修9(3)、創価5、大東文化5(1)、玉川3(2)、多摩美術1(1)、中央31(13)、津田塾3、帝京5(2)、東海1、東京家政2(1)、東京経済2(1)、東京工科大学2、東京女子6(1)、東京電機10(5)、東京農業2(1)、東京薬科1、東京理科大学2、東邦4(4)、東洋21(7)、獨協6、日本27(8)、日本社会事業6(3)、日本女子11(5)、日本女子体育1、法政36(18)、武蔵23(6)、武蔵工業3(1)、明治43(19)、明治学院11(4)、明治薬科3(1)、立教37(13)、早稲田42(24)、立命館2(1)、聖徳1、東京工芸2、東京女子医科1(1)、日本赤十字看護1、文化女子2、文教4(4)、星薬科1、武蔵野女子1(1)、その他 計563名(内 1浪 209名)
- 【短期大学】 都立1、青山学院女子1、駒沢女子1、昭和女子1、日赤武蔵野1、立教女学院1、東京成徳1、その他 計9名
- 【専門学校の主なもの】 日本電子専門学校、文化服装学院、都立広尾看護専門学校、東邦学院音響、他
- 【就職者】 なし

# 恩師近況

## 須田 弘先生

英語 S・31〜41



この六月、13期の同期会に出席しました。皆さん還暦を迎えられたとのこと、本当に月日のたつのが速いなあと感じを持ちました。この学年は、私が大泉高校で最初に担任をし、しかも私が結婚した時の学年という思い出深い学年でした。次に担任した学年は、東京オリンピックが開催され、私も生徒を連れ、野球応援に行ったことを記憶しています。最後に担任をした学年は41年に入学した生徒で、一年の時のみ担任し、転動しました。当時十年以上同一校に勤務できない規定に従ったのです。元氣な一年生で、丁度ビートルズが来日したことを当時の学級日誌に記されていました。大泉高校は、正に私の心の故郷です。

## 牧野 玲子先生

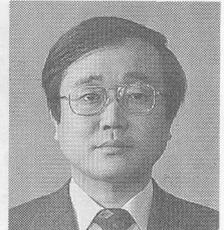
国語 S・42〜49



昨年三月、大森高校長を最後に都立高校を定年退職しました。余生を楽しくと夢見たのが、図らずも母校小石川高校の嘱託員となり、後輩

## 津田 晨吾先生

社会 S・49〜61



オレの生徒たち!!みんなどうしているかなあ、と私はいつも思っていました。君らはみな、おっさんおばさんの顔にはならず、十代の顔のままです。現実には卒業生の誰かに会っていても、すぐにあの頃の顔になるので、「おい」なんて声をかけてしまうのです。

## 佐藤 幸夫先生

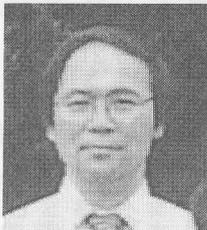
体育 S・48〜62



大泉に骨を埋めるつもりが、異動要綱の変更で転動を重ね、今は調布南高校にいる。大泉の頃は柔道を担当し、全員の生徒と乱取もできたがあの体力はもうない。今ならせいぜい足がもつれ、三日後の筋肉痛が関の山。当時投げられた生徒にとっては迷惑千万だったろうが、一人ひとり直に組み攻防することで個々の人柄や才能の豊かさを実感できたことは大きい。

## 橋本 道雄先生

物理 H・3〜14



俳句の世界に「不易・流行」という言葉があります。不易とは、時代を超え永遠であり本質的なもので、流行とは時代と共に変化する流動性をいい、松尾芭蕉が「奥の細道」の旅の途中で、天地自然の運行や人間の生活の中に変わるものと変わらな

いものことがあることに気付き「不易流行」という世界観に達したと言われています。

大泉には、良くも悪くも世の中の流行には関係のないゆつたりとした大泉時間というようなものがありました。どんなに世の中が変わっても変わらないものを大切にしたいと思えます。異動して5ヶ月、自身にとって変わるものと変わらないものは何か、言い聞かせつつ、過ごしている毎日です。

## 菊地 芳江先生

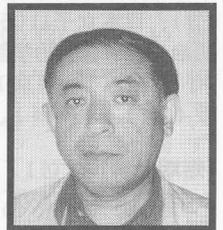
音楽 S・44〜60



現在、10月上旬に開かれる「金子みすずを歌うジョイントコンサート」で演奏するための準備をしています。彼女の、自然や生きるもの全てに対する愛と優しさに満ちた詩の世界をどう表現するかを研究中です。17年間勤務した大泉高校は、夕陽に映える木造校舎やポプラ並木の光景が印象深く思い出されます。そこで青春の時を刻んだ卒業生たち同様に大泉高校は私にとっても心の故郷です。私の気力年齢⇨実年齢×60%で、これだから私の世界だという気持ちで活動したいと思えます。皆さんも頑張ってくださいね!

## 追悼

「使えなくなったボートを学校に持っていく。ボート競技がどんなものかみんなに知ってもらえれば、



嶋田 尚先生  
平成15年2月14日没  
享年57歳  
平成5年〜14年在勤  
社会科

部員も増えるんじゃないか。」練習後、先生がこうおっしゃったのを覚えている。嶋田尚先生はボートの顧問をされていた。部員集めから練習まで、あらゆる面で先生がボート部を支えてくださった。

学校から片道1時間半の戸田ボートコース。練習中は生徒の伴走をするため、直線2kmのコース脇を、自転車でも何度か往復されていた日が落ちてからも続く練習に、先生はいつも付き合ってくださいました。関東大会出場が決まったとき、大喜びで真っ先に学校へ報告された先生。一緒に喜びを分かち合えたのも、一緒に練習をしてきたからだと思う。

私の卒業後、部員の減少に拍車がかかった。今年が正念場です。新入生の勧誘・練習を手伝って欲しい! そんな連絡がOBの私たちにも入った。しかし私たちは数えるほどしか手伝いに行けなかった。

御通夜で、私の知らない先生の写真を見た。先生は一人、胸に大きく「ボート部」と書き、新入生の勧誘をされていた。私は申し訳なく思い、同時に胸が熱くなった。先生のお顔を拝見し、お別れをさせて頂いた。

先生がいらっしゃらなかつたら、私たちはあんなにボートに打ちこめなかつただろう。「恩師」という言葉で頭に思い浮かぶのは先生以外にはいない。ご冥福をお祈り致します。  
(高52期 岩田泰典)

# 「カトレアの誓い」が人生の転機でした

## 賀曾利隆さん訪問

バイクで国内はもとより世界各地を駆けめぐり、活躍なさっている賀曾利隆さん。先日、伊勢原市の自宅を訪ねて、お話を伺いました。(広報部)

小学生のときに読んだスウェン・ヘディンの『タクラマカン砂漠縦断記』に感銘を受け、大人になったら中央アジアの探検家になりたいと思ったことはあります。また中学・高校時代にはシルクロードに強い憧れを抱いていました。しかし、実際に自分が冒険家なんて夢物語のような職業になるなんてことは、在学当時

は考えてもみませんでした。

### \*大泉時代はサッカー一辺倒

中学・高校時代はサッカーに夢中だったんです。石神井中2年のときから始めたのですが、入部した頃は弱小だったチームが、中学3年ではなんと都大会決勝にまで進出しました。しかも、準決勝では自分が決めたゴールが決勝点になったんですよ。当時の大泉高サッカー部は名門で、自分たちの憧れでした。それで、都大会が終わった秋から目の色を変えて猛勉強しました。大泉高校というよりサッカー部に入りた一心でした。

たね。3か月程度の受験勉強で、我ながらよく合格できたと思います。

「強運の賀曾利」って、よく言われるんですよ。今までにバイクで一〇〇万km以上の距離を走っているんですが、命を落としかけるスレスレのところまで何度も助かっているんです。人によっては、「悪運の賀曾利」なんて言うんですけどね。(笑)

そんな訳で、大泉高ではサッカー一辺倒の毎日でした。入学式前から春休みの練習に参加していましたし、部活に使う体力を温存するため、午前中の授業を「自主休講」にしたこともありました。物理の佐藤正先生が心配してよく声をかけてくださいました。「賀曾利、お前ちゃんとう午前中から学校に来いよな!」とか、今でも耳に残っています。

残念ながら自分たちの時代に大会でいい成績は残せませんでした。あの厳しいトレーニングのお蔭で体力の基礎ができました。いま思えば、現在まで自分が活動を続けてこれたのも大泉高校サッカー部での体験があったからだ、感謝しています。

### \*一〇歳の頃からバイクに

一〇歳のとき、遊び心で初めてバイクに乗りました。そのときの宙に舞うような気分、感動が忘れられず、中学時代は無免許でバイクを乗り回していました。別にカミナリ族だった訳じゃありませんよ。(笑)

9月1日生まれなので、誕生日当日、2学期の始業式をサボって免許を取りに行き、その足で中古のバイクを買って帰りました。やつと堂々と乗れると思うと嬉しかったですね。でも、高校時代はサッカー中心の生活をしていたので、ツーリングに行った経験もないんですよ。

### \*アフリカ縦断計画

高校3年の1学期末、受験勉強の気晴らしに仲間4人で外房海岸へ旅をしました。車窓から見える海の広さに感動の声を上げ、広さならアフリカの大地が上だと、「バイクでのアフリカ旅行」の話題で盛り上がりました。旅のあいだ、皆で憑かれたようにアフリカの話をしました。そして、2学期までに各々がアフリカ縦断計画を練ってくるよう約束して分かれましました。

特別アフリカに興味があった訳ではないのですが、今にして思えば、日常から飛び出すシンボルとしてのアフリカ、憧れの世界の象徴だったんですね。

9月1日、始業式の後で我々4人は、当時北口のパチンコ店2階にあった「カトレア」という喫茶店に集まり、持ち寄った計画をまとめまし



愛車は SUZUKI DR-Z400S

た。翌春の受験を突破して、2年間でバイトで資金を貯めた後、休学してアフリカへ渡る。「これはカトレアの誓いだ!」と。旅先での勢いそのまま、怖いもの知らずの状態でした。サッカーを退いて受験体制に入ってからというもの、悶々とした日々を送っていた私でしたが、このとき「俺は生きていくんだ!」という実感が突然身体奥から湧き上がり、叫び回りたい程の衝動に襲われたのです。

それ以来、むさぼるようにアフリカ関係の書物を読みあさり、計画ノートは着々と仕上がっていったのですが、残念ながら大学受験は失敗してしまいました。

浪人はしないと固く心に決めていた私は、両親の説得を振り切って、夜中から朝までは牛乳配達、昼間は築地の印刷会社の仕事に就いて、日に二〇時間位働きました。

仲間の一人は、早大進学後バイトに明け暮れていました。彼とは互いに励まし合い、一〇〇万円ずつ資金を貯めました。まだ大卒初任給が三万円に満たない時代のことです。

残る二人は家族の猛反対でアフリカ行きを断念せざるを得ませんでした。だが、うち一人はその後大学を中退して、南米・アフリカの旅へ。もう一人は商船大から船会社に入り、仕事で世界中を駆け巡りました。

### \*アフリカ旅行が原点

二〇歳の春、出港前の船上で私たち2人は「俺たちは、やったぜ!」と声を限りに叫びました。そして、すっかりアフリカに魅せられた私は、2年後に帰国したとき「これからはバイクで世界を駆けるぞ!」と心に決めていました。

以来三五年間こうして旅を続けていますが、このアフリカ旅行がすべての原点です。大泉高校での仲間たちとの出会いがなかったら、全く別の人生を歩んでいたと思います。

### 賀曾利隆 ONLINE

(<http://www.insatell.co.jp/kasori/>)

賀曾利さんの活躍が、ホームページでご覧になれます。画像と音声を使用した、とても楽しい記事が満載です。メールマガジン『カソリング』(無料)も配信しています。ぜひ一度アクセスしてみてください。



### 賀曾利 隆

(かそり・たかし)  
ライター&ライダー

高18期。20歳のときに、バイクでアフリカ縦断旅行を敢行して以来、現在までに129の国々を歴訪。国内では全国温泉めぐりやバイクでの峠越えで有名。旅行記を中心に著書多数。この7月には、「アラスカ縦断3000キロ」を走破。

# 緑 蔭

## 同期会 会報

精神的に活動を続けている同期会のなかには、「会報」を発行している期も多くあります。そのうち幾つかの期の会報づくりの活動をご紹介します。

### 高11期 カルチャートークは 高校11期のブランドです

同期会報の編集会議とカルチャートーク企画委員会を合同で行うとの連絡を受けて、開設もない「いずみ会室」へ取材に伺いました。

カルチャートークについては、会報第36号(平成5年発行)で詳しく紹介されていますが、年2回、同期生の1名か2名がスピーカーとなり、自分の専門分野をテーマに経験や意見を語る集いのことです。平成2年同期会での堤治美先生のご発言をヒントに、その年の7月から始めたもので、現在までに20回を数えるに至っています。

同期会報も、このカルチャートークがきっかけで発行し、会報第1号は、第1回カルチャートークの報告と第2回の開催案内でした。以来、次回発行予定の第25号まで変わらぬペースで発行を続けています。(ちなみに、3年毎の同期会を開催する年にはカルチャートークはお休みして、会報も年1回になるそうです。)

この日の会議には7名の同期生が



会議も無事終わって (高11期)

集まり、11月に予定のトーク(NPO法人を設立して介護事業を開業。関心をお持ちの方はゲストとしてお越しください)の検討と、それに合わせた会報発行スケジュールを打合わせました。気心の知れた仲間間でワイワイと議論を重ねていく皆さんの姿は、本当に楽しそうに見えました。

### 高13期 メール配信もしています



高校13期では、同期会開催の度に会報を制作し、当日会場で参加者に配っています。平成8年に開催した第4回同期会から始めた取り組みで、今年6月の第6回同期会(10面に報告記事があります)で第3号を発行しました。「同期会開催実行委員」のうち編集委員が制作しています。

今号の特集記事は「還暦を迎えて」。B5判21頁のとても読み応えのあるものでした。Wordで編集しており、同期生の中で電子メールアドレスを持っていない70名程の方にも、メールで配信しました。

編集に携わる楽しみの一つは、同期の皆さんに喜んで読んでもらえること。特に創刊号の「海外在住同期生便り」は面白い企画で、逆に悩みといえば、原稿集めに苦労していること。大泉高生の性分だからか、切の遅れが多かったり、急に忙しくなったりと断わりの連絡があつたりで、開催日まで完成できるか、毎回心配しているとのことでした。

### 高20期 いつまでも青々と

# 緑 葉

高校20期の会報は「緑葉(りよくよう)」といいます。1998年に大泉高校を卒業したことから、「ロクノ緑」「ハ(チ)ノ葉」と表わしました。「緑葉」創刊時の我々の45歳という年齢を

考え、これからは瑞々しく若葉の様にしよう!と命名したものです。担任だった橋本精一先生に題字を書いて頂きたいとの意見が一致し、ひば

りヶ丘のお宅へ伺ったのもよい思い出です。

それまでも、20期の仲良しグループ数は半年に一度、小さな集まりをもっていただけですが、そのメンバーを中心とした、卒業後26年ぶりの同期会は、100人を超える大きな会になりました。お互いの健康を確認しつつ、容貌の変化に少し戸惑うものの、卒業以来それぞれが培ってきた実社会での経験や日頃の活躍ぶりを話す姿は、実にエネルギー溢れで素晴らしいものでした。そこで、「遠方で今回の会に参加できなかった人達はどうしているだろう。知らせあうよい方法はないだろうか」と、会報の発行を企画しました。



### いずみ会文庫の図書購入費として寄付金をいただきました。

同窓会報「いずみ」に同封して送っています。毎回の「特集記事」には、共通のテーマを探します。

- ①「緑葉」発刊にあたって
- ②「95・1・17兵庫県南部地震」
- ③「どうなってるのJAPAN」
- ④五十歳を前にして
- ⑤座談会「フクシってなあに」
- ⑥「やあい五十路」
- ⑦「2000年 古きを尋ねて」
- ⑧「縁故知新」知恵の塊、人生の先輩

特集を読んで電話やはがきを下さる人もいます。高校時代を共有した仲間思いに出に花咲かせるだけでなく、今、これからの生き方や遊び方を語り、相談しながら充実した毎日を過ごしたい。そんな思いで次の号を考えています。(企画担当者 談)

皆さま方の期では、同期の会報は発行されていますでしょうか。小欄をお読みいただいたことを契機に、創刊に向けて動き出してください。方がいらつしやいましたら、望外の喜びです。(広報部)

この度、高校26期の会員からいずみ会に11万円の寄付のお申し出がありました。これは同期で平成14年2月18日に亡くなられた松本義文氏に對し、故人を偲んで今年2月に集まれた席上、同期のお仲間と話合われて纏められたもので、代表の江幡真史氏からご連絡をいただいたものです。

松本氏は大泉高校在学中に図書委員を務められ、また無類の読書家でもあったことから、この寄付は母校

在校生のために図書室の充実や図書購入費に充てたいと希望され、直接母校に申し出をされましたが、現在の都立高校の制度上、色々な問題があり、結果としていずみ会を通して現役生徒に必要な図書を「いずみ会文庫」の蔵書として購入し、役立ててもらおうことになりました。

いずみ会では、より有用な図書を揃えてご厚意に報いるため、母校の司書の先生とも相談して、慎重に選定作業を進めているところです。

月)ラグビー部応援ホームページ(管理者高25期大須賀)などの活動に加え、全国大会や関東大会へ向け今秋から来春にかけての現役の活躍が期待されますので、OBの練習支援、応援にも力が入りそうです。



### 山岳部

山下 嗣夫 (高9期)

#### 「知床・登山と山の旅」

知床の硫黄山は休火山である。山懐に有名なカムイワッカ温泉が湧出しているし、中腹の硫黄採掘跡には無数の噴気孔がある。共に登ろうと語らった仲間を病で失い、追憶登山と温泉の旅を兼ねて出かけた。

道は荒れ気味で熊も出るという。7月でなお長大な雪渓を渡り歩く。稜線に出れば荒涼として高山の趣が漂う。頂上直下は険しい岩稜となり、諦めたパーティも出た。

遙かに眼を転ずれば、青いオホーツク海



に知床岬巡りの白い航跡が美しかった。帰路は知床岬の先、羅臼の「熊の湯」へ浸かり、汗と疲れを流した。夜半気心知れた民宿で盛り上がり、珍鳥シマフクロウも祝福にお出ました。

### 天文部

小杉 哲也 (高40期)

天文部OB会の定期的な集まりは毎年暮れ、12月29日に実施している忘年会のみとなっております。毎回、6~8人程度が集まっており、天文のことばかりでなく、近況や雑談を和気藹々と飲みながら話しております。今後の計画ですが、昨年暮れ2年毎に行っていた観測会も、主催者多忙及び連絡体制不備のため、途絶えてしまいました。しかし、天文部OBということも今後とも続けていきたいので、天文イベントのある時ぐらいは活動したいと思っております。火星の大接近には間に合わないと思いますが、連絡体制が整い次第、開始したいと思っておりますので、OB会諸氏の協力を求めます。

### 吹奏楽部

依田 尚子 (高37期)

毎年、吹奏楽部の高校生と合同で行っている「サマーコンサート」は、およそ70名の卒業生が集まる、暑い夏に欠かせない行



事です。また、去る2月23日に、大泉学園ゆめりあホールで行われた「アンサンブルコンサート」も3回目の今回は小編成のアンサンブルに、のべ68名が参加し、すっかり冬の定番行事となりました。

不幸な出来事が毎日のように起こるいまの時代。それぞれのおかれている状況も決して楽観できるものではありませんが、気の合う仲間たちとこうして音を合わせられることを、本当に幸せだと思います。

舞台の上と客席とで、同じ時間を過ごしに、いちどおいでになりませんか?

### 7月に7組で70歳の祝い

金子 研一 (高20期)

小山先生の古希の祝いを兼ねて、30年ぶりにクラス会を原宿の宮本君の店で開きました。連絡はメーリングリストで(先生も参加)行い、51人中25人の紳士が集まりました。

「誰だったっけ?」からはじまり、大久保君のドスの利いた司会、なぜか古希には紫色の帽子という鈴木豊君の講話と、遅くまで話はずみませんでした。小山先生の、「言われた方はいつまでも覚えておくこと、教師の発言の重さをあらためて感じた」との言葉が印象的でした。

最後に、7年後の7月に、先生の喜寿(77歳)と我々の還暦を共に祝おうと、再会を約束して解散しました。



### お知らせ

#### ■高15期同期会

平成16年11月に開催予定  
詳細は後日各自に連絡します。

#### ■高20期同期会

来年は5年に一度の同期会の年にあたります。秋頃をメドに計画したいと思っておりますので20期の皆さんお楽しみに!  
詳細ははがきにてお知らせします。

#### ■高29期同期会

来年(平成16年)4月開催予定  
詳しい日程等は各自に連絡します。

問合せ・大久保 靖  
Tel 042-336-5916

#### ■お願い

同期会・OBOG会・先生を囲む会・有志の集まり等同窓生の会合の開催の情報をお待ちしています。いずみ会窓口までご一報を!



### 会員訃報 (敬称略)

心よりご冥福をお祈りします。

中1期	奥川 純一	平成14年3月16日	高11期	西村 賢一	平成14年7月23日
中2期	安藤 雄一	平成14年11月3日	高11期	田中 直樹	平成15年6月3日
中2期	榎本 滋民	平成15年1月16日	高11期	五田 敏兼	平成14年7月
中2期	大谷 喜啓	平成15年4月13日	高12期	阿部(藤井)久子	平成14年7月4日
高1期	加唐(松本)海人	平成13年9月27日	高13期	宮永 和夫	平成14年10月24日
高4期	江上 茂	平成15年1月	高14期	伴 隆徳	平成14年4月4日
高4期	戸田 正	平成15年7月8日	高15期	中村 一弘	平成10年11月30日
高5期	川和田修二		高16期	高橋 祥枝	平成6年11月5日
高5期	榊原 剛	平成15年6月30日	高18期	関 勉	平成13年11月24日
高5期	片桐(中山)恵美子	平成14年12月22日	高18期	佐久間 健司	平成14年8月26日
高6期	中矢 博行	平成13年11月23日	高22期	森泉 一男	平成11年8月27日
高6期	鈴木 俊明	平成14年3月	高26期	河合 浩	平成14年5月
高6期	山口 彦次	平成15年1月5日	高27期	小川(林)恵理子	平成14年2月1日
高7期	永島 信敬	平成14年8月3日	高28期	丹生(佐藤)悦子	平成15年5月12日
高8期	辻 志郎	平成14年1月23日	高28期	今井 博之	平成15年7月5日
高9期	岡本 康男	平成15年6月7日	高29期	山本(柴田)恵理子	平成9年9月13日
高10期	中村(熊谷)多見子	平成12年4月13日	高30期	篠原 裕	平成15年6月26日
高10期	根橋 徹郎	平成15年3月8日	高31期	浦野(八橋)里佳	平成14年8月16日

かを学んだり感じたりしながら、生き生きと生活している方が多いのは嬉しい事です。

病気を克服した方やリハビリ途中の体験談には、皆が耳を傾けました。

何でも率直に話せる、心の温かい友人達に出会える集い、これが8期の同期会なのです。



高15期 卒業後40年

石川 文武

第9回目の同期会を平成14年11月23日、50余名参加のもと、小川・原田・堤各先生にも加わって頂き池袋で開催した。

卒業後40年ということであるが、第10回同期会が還暦の年に開催予定であることもふまえ、メインテーマは特別に設定せず、もっぱら旧友との会話を楽しんでもらうこととし、約1年かけて準備を進めた。幹事クラスはB組であるが、いつもと同様、各クラスから数名ずつの協力を得て進めた。

卒業時には350名いた同級生が、死亡、行方不明等で次第に減り、案内状の発送数は250通になり、出欠等の回答は150名からしか得られなかった。

第9回目にして初登場の仲間がいる一方、皆勤賞もいる状態で、話に花が咲いた。現役頃ほど我々との年の差を感じなくなったが、お元気な3人の先生たちのスピーチも、お出かけ前にあわてて卒業アルバムを見てきたに違いのないと思われる内容もあり、爆笑の渦であった。次回は平成16年11月、幹事クラスはA組です。

高10期 これからも挑戦!

角原 佑一

各クラス幹事21名が集まり、同期会を11月23日、日比谷公園内松本楼での開催と決定。夏の暑い最中の案内状の作業、開催までの5回にわたる打ち合わせを経ての成功は幹事の協力と努力無くしてはありえないと感謝の気持ちで一杯だ!

当日は鮮やかな紅葉に囲まれて16時30分開宴。出席者は宇高・大橋・近藤・中山・永嶋の諸先生と同期の110名。いつも感じることだが、先生方のお若く元気で体型の変わらぬことだ。出席者の中より声しきり。俺たちより若いよ!会長である角原より挨拶。これからは未知の世界、それも魅力ある世界への挑戦。その為には健康に注意して、元気に行こう!これに合わせて全員

元気良く好みのアルコールと料理に突進。勿論松本楼名物のカレーライスも用意済み。

一息ついた所で恩師の挨拶。高校時代そのままの喋り方、そして動作。嬉しくなってしまう。さらに日本医大教授の吉野君より「今後の人生楽しく過ごすには笑うに限る」という講話もあって、あっという間に3時間。恒例の中山先生指導の下、校歌を歌って幕が下りた。

都立大泉高校第十期同期会



高13期 人生より難しい芸術はない

山本 章義

今回は13期生全員が公平に還暦を迎えた4月以降という事で、6月14日(土)帝国ホテル「蘭の間」で還暦記念を兼ねた6回目の同期会となりました。出席者は68名と、高橋(茂)・森谷・須田・倉園の4先生方にお越し頂きました。

田中昇次氏の司会で会が始まり、まず山本代表幹事の挨拶、実行委員の紹介後、ご来賓の高橋先生を筆頭に先生方の近況報告を話して頂きました。何度か入院された須田先生からは病氣と闘うのではなく、共生するのだと革新的な話を伺い、理に適っていると思いました。

欧州出張から当日帰国して駆けつけてく



れました初参加の諏訪氏の音頭で乾杯。今回もイベント等は省略し、後は自然に歓談の輪が広がりました。卒業以来初めて参加した人も数名おりました、先生方や皆さんとの42年ぶりの再会に花を添えていました。また須田先生がご持参下さったのっぺら棒の「大学ノート」であった学級日誌をめくりながら、どなたも思い出に胸が膨らんだことでしょう。同期会開催記念として13期会報第3号も「還暦を迎えて」特集とし、発行しました。

高32期 三倍お得なクラス会?

江口 乃一郎

03年1月19日新宿にて8年ぶりの同窓会を開催した。出席者は50名を超えた。(体重で考えれば高校時代の80人分?失礼!)

こういう会の面白いところは、最初は異常によそよそしく時間が流れるのが長く感じるものの、会が終わる頃には大騒ぎしてみんな時間を惜しむように変化しているところだ。遠方から来てくれた者も多く、久々の旧友との会話をかみ締めていた。

途中誰かの提案で、1年、2年、3年、と年次別でクラスに分かれて当時の話題に花を咲かせた。これはとても良いアイデアであったが、自分が何組かも忘れてしまっている「お惚け」君も多いのには、20年以上という時の長さを感じさせられた。

短いながらも笑いの絶えない中、仲間同士で各々の現在や生き方を語り聞きながら純粋に大事な何かを得ることが出来た。言葉では言い表すことは難しいが「活力」とでもいえば良いのかもしれない。

恩師も何人か他界しているだけでなく、残念なことに僕らは既に5名の仲間を失っている。彼らの死から、僕らは命の尊さを改めて知り生きていく。

次回数多くの者が出席できるように。



OB・OG会



ラグビー部

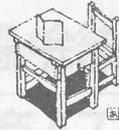
酒井 陽三 (高18期)

本年度のOB総会は7月12日開催されましたが、グランド状態が悪く現役との交流試合は出来ませんでした。しかし、現役

との懇親会は赤松、石川副会長(高18期)や秋田高校OB代表も参加し、盛大でした。

現役は少数精鋭を誇っていますが、鎌田監督(体育科教諭)を支援すべくOB会でコーチ陣(高25期吉川・井口・大須賀)を任命しました。小石川高校と現役、OB定期戦(6月)秋田高校OBとの交流試合(11

# 同期会だより



## 高2期 71歳になりました

稲村 啓

全員が古希を迎えた昨年、何十年ぶりか  
で開いた同期会。57人が集まった。今年4  
月26日(土)正午、東武バンケットホール  
の再開第2回に顔を見せたのは45人。うち初  
参加が12人。一見それと分かる人、名乗り  
あって初めてお互いを確認できる人。会合  
で一番貴重だったのが、胸のプレート。

中学4期を含む高校2期の我々141人。  
戦中・戦後をそれぞれに生きて、今なお所  
在の分からない人が20人。手を尽くして捜  
しているのだが、この1年に分かったのは  
たったの3人。そして17人が幽冥、境を異  
にしている。

会場は和やかに、歳相応の盛り上がり。  
昭和19年入学時に一緒にその後、疎開・転  
校。今浜松に住んで、59年ぶりに顔を会わ  
せたK君。時間とともにかつての面影へい  
たずらっ子のそれが甦る。

2時間はあっという間に過ぎて、次回幹  
事を高橋宏、近藤藤通、柴田早苗の3君に委  
嘱、散会。まだ明るく、二次会で酔酩した  
グループも幾組か。71歳になりました。



都立大泉高校第2期、旧大泉中学校第4期同期会 於 東武バンケットホール 平成15年4月26日

## 高3期 古き良き仲間達

田部 一郎

今年の同期会は11月16日(土)12時30分  
より新宿野村ビルのホテルオークラ宴会場  
で『古き良き仲間達』が集まり盛大に行わ  
れました。今年は古希の歳でもありなんと  
ご案内した146名の38%の55名が参加され  
ました。

会は山岡幹事の挨拶に始まり我らのマド  
ンナ(大城さん・宮崎さん)2名の発声で  
の乾杯、その後歓談に入り、後段では卒業  
以来始めて来られた方、数十年ぶりに来ら  
れた方からの挨拶、最後に校友の歌を全員  
で合唱し再会を約し、解散致しました。

今回は会場が狭く沢山の方に参加してい  
ただいたので、座席が十数席しかとれず心  
配していたのですが、殆どの方が2時間の  
間立ち放し状態であったにも拘らず、元氣  
に最後まで歓談して会を盛り上げて頂き、

感謝しております。

欠席者の中には病氣療養中の方も多く、  
一日も早く回復され、同期会に出席出来る  
様お祈りしております。



都立大泉高校三期同期会 於 新宿ホテルオークラ

## 高4期 西伊豆の旅

江南 宏

私達高校4期は卒業50周年を記念し、平  
成14年11月18日～19日、西伊豆土肥温泉に  
一泊二日のバス旅行を行いました。参加人  
員、男性30名、女性7名。この記念行事  
は、比嘉実行委員長のもと約2年の準備期  
間をかけました。

当日は練馬、池袋、小田原で参加者を拾  
いましたが、小野康彦君は神戸から、高木  
眞悟君は名古屋からの参加でした。箱根芦  
ノ湖遊覧を経て、土肥温泉「玉樟園」に定  
刻どおり到着。バスの中では、A3判に拡  
大した50年前のクラス別卒業写真パネル  
をながめ、懐かしく当時は回想。夜は、同  
期物故者への黙禱後宴会を開始。余興の「ピ  
ンゴ」賞品も最下位で「アジの干物」、会場  
は大いに沸きました。また、懐かしい話は  
尽きず、二次会も夜遅くまで続きました。

翌日は、富士の展望を期待し西伊豆スカ  
イラインを経由するが、生憎の曇りで富士  
は見えず、韮山の江川邸見学の後帰路に。  
平成15年度同期会での再会を約し、記念品  
の「ラジオ歌謡ヒット・ソング集CD」卒  
業記念写真の複製(B5判)を手し、別れ  
を惜しみながら順次解散しましたが、本当  
に楽しい二日間でした。



## 高5期 50年目の修学旅行

岡崎 晴義

昭和28年卒業以来半世紀ぶりの修学旅  
行会と名づけて平成14年10月31日～11月  
1日箱根湯本温泉へ一泊二日の旅をしてき  
ました。約300人の同期生に予備調査をし  
ましたところ、約200人から返事がありま  
したが、健康上の理由、家庭の都合などで  
参加が難しい方も多く、結局28名での旅と  
なりました。

一日目は新宿からのスタート。卒業以来  
始めてという人達も50年の時間を取り除  
くことが出来、和やかにうちとけてのロマ  
ンスカーの車内でした。新宿のデパ地下で  
おやつと飲み物を調達したのは言うまでも  
ありません!

宿に着くと、箱根の大自然の中で、日々  
の煩わしさを忘れ、展望大浴場や露天風呂  
に身を沈め、おいしい食事をいただき、専  
用ホールを貸切状態でカラオケとダンスに  
興じ、旧友達と帰りの時間を気にすること  
なくゆっくりと楽しいひとときを過ごすこ  
とができました。

翌日は生憎の天気の時折傘をさしての旅  
となりましたが、予定通り、登山電車・ロ  
ープウェイ・芦ノ湖遊覧船と乗り継いで  
箱根一周。故障する人も無く全員無事楽  
しく旅を終えることができ、幸いに思います。



## 高8期 今を語り合う

宇田川 公子

4月19日(土)に半蔵門のダイヤモンドホ  
テルで、2年振りの同期会を開催しました。  
土屋先生・畑野先生・中山先生も出席して  
下さいました。

山の手線に離れての会場は初めてでし  
たが、地下鉄網が発達しているため、多面  
から便利にアクセス出来て好評でした。二  
次会も同ホテル内の別会場で行いました。

8期は卒業後20年位までは5年毎、それ  
以降は凡そ3年毎に同期会を開いているの  
で、思い出話よりはお互いに今を語り合う  
事が多い様です。

畑を借りて色々な野菜を育てて収穫する  
喜びを知ったり、男性の料理教室に通い料  
理開眼をしたり、大学の社会人講座で歴史  
や語学の勉強をしておいたり、世界遺産を  
巡る旅をしたり、時間の有効利用の仕方は  
様々です。会社人間を卒業しても、日々何

# 10月26日(日) いずみ会総会・懇親会のご案内

(燦) (燦)  
愛 3. 3 (大泉があったかい)

懇親会は「3の会」がこれでもかと温かいおもてなし

心のこもった温かい鴨鍋。盛りだくさんの料理。練馬大根の本格焼酎。  
清酒吟醸練馬。あの阪神タイガースゆかりの酒・麦酒などを飲む。(格安提供)  
ソフトドリンクもいろいろ用意。お楽しみいただけます。

人間ビンゴ。ボウリング大会に参加して面白い賞品をゲット。

現役のブラスバンド部の演奏を聴き。ブラスバンドと一緒に思い切り歌う。

———先輩も後輩も同期もみんな仲間にしちゃいましょう。———

と き 平成15年10月26日(日) (13時~16時)  
ところ 母校(2F)大会議室・視聴覚室  
参加費 中1期(S20年卒)~高42期(H2年卒) @2500円  
高43期(H3年卒)~高52期(H12年卒) @1000円  
高53期(H13年卒)~高55期(H15年卒) 無料

今年の運営幹事は、卒業期の下一桁に3がつく「3の会」です。  
高校3期(S26年卒)から高校53期(H13年卒)までの6期です。  
今年は遠足とお祭りの気分で盛り上げます。皆様、楽しんでください。  
ご出席の方は同封のハガキでご返事ください(10月15日まで)

いずみ会 会長 石井 岱三(高6期)  
「3の会」 会長 長谷川浩吉(高3期)

## 人差指世代から親指世代までの ネットワーク ようこそいずみ会 ホームページへ

こんにちは、ようこそ「いずみ会ホームページ」へおいでくださいました。勿論<http://www.izumikai.net/>をご存じです。このホームページは、いずみ会の情報公開のために作られています。平成13年に立ち上がりましたが、すこしずつ会員の皆様に周知されつつあります。さて、いずみ会においては2万余名の会員が同じレベルで連携し活動(ネットワーク)することは非常に難しいことで、現在、会員相互の交流の場は、総会・懇親会が最大規模であり、参加人数は200名程度です。こういった交流も、生の声を聞き、暖かみを感じることは少し物足りないですが、このホームページを媒介して行くと無限の可能性を有するものと考えます。人差指でキーを叩く世代も親指一つでことをすませる世代も同じ世界を共有できるのです。今のところいずみ会ホームページは会からの情報提供が主ですが、段々に会員の皆様の情報をお送り頂き、輪を広げていきたいのです。人間の感情には喜怒哀楽と悩みがあります。このホームページによるネットワークを通して、会員が相談し、問題解決したり、癒しあったり、同情しあったりしたいではありませんか。楽しみを与え合い、悲しみは分散しあい、喜びは享受しあい、悩みは解決しあおうではありませんか。

さて、ホームページを見られない頑固なお年寄りにホームページを見られるように丁寧にご指導いただける会員の方はいらっしゃいませんか。先輩の会員の皆様、ホームページに半歩踏み出してみませんか。

母校のHPが開設されました。  
<http://www.oizumi-h.metro.tokyo.jp/>

## 名簿幹事の集い報告

名簿部の平成14年度の締めくくりとして、平成15年3月16日(日)、「名簿幹事の集い」が、石神井公園駅前の「区民センター」で開催されました。

例年、3月の部会は、親睦が主なのですが、今年は、「いずみ会2000年名簿」発行から3年を経て、もし、2005年に次の名簿を発行するならば、どういう形にするか、7月・11月の部会で、検討を重ね、そろそろ結論を出さねばならない時期である事、「名簿部」の名称変更(5月の幹事総会で、「会員情報部」と改称が承認された)の件等、持ち越しの案件が多く、活発な意見が出されました。石井会長はじめ6人のゲストも出席され、理事会の意向が推察でき、また、前名簿部長の吉田氏のお話も有益でした。

総勢43名、後半1時間は、高2期、桜井宏氏(現会員情報部部長)の乾杯の音頭が始まる、楽しい歓談のひとときでした。来年は、ぜひ、若い期の幹事さんの出席をお待ちしています。名簿へのイメージの違いなど、おおいに話し合ひましょう。

(高9期:大軒史子記)

## いずみ会のお手伝いを お願いします

いずみ会は年々会員数を増し、大きな会になってきました。理事会では会員一人一人の声を聞き、活動に反映をしていきたいと思っています。しかし近年パソコンの普及と共に、メール通信による業務が多くなり、活動のスピードもどんどん速くなり、理事会メンバーだけでは十分な対応が難しくなっています。しかしいずみ会はいずみ会員による運営が基本ですので、出来るだけ会員の皆様のお力をお借りできればと考えています。いずみ会では理事会と一緒に事業遂行をしてくださる、事務局幹事さんを募集しています。

次のお手伝いに協力をお願いします。

- ・パソコンでワード・エクセルソフトが使える、メール通信ができる。
  - ・録音テープからワープロまたはパソコンに文章をおこすことができる。
  - ・総会や懇親会等会合の受付補助ができる。
  - ・週に2~3日、いずみ会室で留守番ができる。
  - ・ホームページ作りとアイディアとスキルを提供できる。
- 難しくお考えにならず、いずみ会を色々な面から支えてあげようというお気持ちでのご協力ください。

## いずみ会連絡窓口

ご意見、ご感想、住所情報等は下記の方法で連絡をお願いします。

- 同封のハガキにて、お寄せ下さい。
- 郵便 〒178-0063 練馬区東大泉6-34-30  
SKビル305号 いずみ会室
- FAXなら、 **03-3920-2374**
- Eメールなら、 **izumikai@v7.com**

## 編集後記

異常冷夏の8月が終わり、新学期が始まったとたん、まるで真夏に戻ったかのような厳しい残暑が続く中、会報編集は最後の追い込み作業に入っています。

そもそもこの会報は、ホームページと並び会員といずみ会をつなぐ最も大切なメディアであると考えます。いずみ会からのお知らせばかりに偏ることなく、会員相互の交流や連携の場として、また母校や会員に関する情報提供の場として、年に一度の会報をますます充実させたいと広報部一同念願しております。皆様も、同窓生や母校に関するさまざまな話題、情報をどしどしお寄せ下さい。それが、さまざまな年代、立場を反映した、より内容の濃い会報に繋がるのではないのでしょうか?

■広報部会報班 北上俊人(高11期)、森田陸四郎(高15期)、荒井真理子(高20期)、植村久(高21期)、大久保靖(高29期)、仲沢浩一(高32期)

印刷所/一光印刷所 ☎03-3953-3336